

JRCA 2018 年度 第 5 回理事会 議事録

2018 年 10 月 24 日 (水) / 文京区 区民センター3F 会議室 E 18 : 00~

参加者 : 新井、中原、高桑、佐藤、冨田、
中島、福永、伊藤、倉林、保井

1、8-9 月会計報告について 承認された

2、第 9 戦 第 46 回 M. C. S. C. ラリーハイランドマスターズ 2018 Supported by Sammy の報告

- ・ 車検や受付のタイムスケジュールは昨年よりも良くなっていたが、レッキはステージ前の待ち時間が長く、スケジュールの効率が悪い。
- ・ 今回のラリーではフレキシブルサービスの必要性を感じられなかった。
- ・ コースがあまり代り映えしない。高山の街中や駅前からスタートしたい。
- ・ レッキ時から、主催者側が独自に競技車のスピードチェックを行い、違反者が出てしまった。リエゾンでの交通ルール順守を徹底する必要がある。
- ・ レッキ時に競技者車が次々とひっきりなしに来るのは、例え制限速度内で走行していても印象は良くない。レンタカーであったり、せめてグループ分けをして、台数が固まらない様な配慮が必要。
実際、レッキをレンタカーで行った主催者の話では、レッキ時の苦情は大幅に減少している。また、威圧感を晴らすため、レッキ時にレッキ車両が固まって移動することを減らすよう、グループ分けをしてレッキを行うなど、配慮が必要と思われる。
レッキ中、SS 内でリズムを乱すクルーが見受けられるが、経験や成績などでグループ分けをすることで、こうした事案も解消できると思われる。
- ・ スタートリストの順番を決める際、全日本ラリーの経験が浅いクルーの扱いについて、もう少し考慮が必要と思われる。またそうしたクルーの側も、スタート順を配慮してくれるよう、主催者側に申し入れることも必要だろう。
- ・ 身体障害者選手の出走順などは、不慮の事故が起きた際の救助なども考慮した走行順にする必要がある。

3、JRCA 法人化検討について(新井理事より)

前回理事会で新井理事が不在のため、再度詳細説明

- ・選手やオフィシャル、ラリー運営の今後も踏まえた上で、法人化に向けて前向きに検討していく。今後、理事会では毎回議案内容に織り込んでいく。

4、各イベントのタバードメディア審査について

- ・タバードを着用できる経験がないにもかかわらずタバードを着用しているメディアが増えてきている。多くのメディア媒体にラリーのことを取り上げていただけるのは喜ばしいことだが、ラリー取材は危険が伴うので、経験のないメディアに安易にタバードを与えることは非常に危険である。WRC で採用されていたアシスタント制度の導入や、JAF メディアパスの活用方法なども含め、検討していく必要が感じられる。今後、主催者部会とメディア部会とで検討を行っていく。

5、JRCA アワードについて

- ・新城ラリー終了後、理事よりアワード候補者を募り、理事会にて決定の後、11月30日に行われる JAF 表彰式の際に授与することとなった。

6、来年度のガイドブックに関して

- ・企業によっては、来年度の予算組みが早めのところもあるので、企画書着手を早々に行う。

7、その他

- ・次回以降理事会開催予定日

11月14日水曜日 18時より

文京区シビックセンター内区民会議室 3 F-B

12月6日木曜日 18時より

文京区シビックセンター内区民会議室 4 F-B